

経済学で考える日本の問題

首都大学東京では、2018年4月より大学院教育として経済学プログラム（修士）を開始し、社会人も学べるように、主として丸の内サテライトキャンパスで夜間に授業を開講します。これを記念して、「経済学で考える日本の問題」をテーマとして以下のシンポジウムを開催します。

日時：2017年11月18日（土）
14:00～17:00（13:30 開場）

場所：AP東京丸の内
千代田区丸の内1丁目1-3 日本生命丸の内ガーデンタワー3階

講演1 木村 武 氏（日本銀行金融機構局審議役）
「おもてなしの国日本の経済成長は持続可能か？
—人口減少、デフレ、生産性向上を考える—」

講演2 安藤 至大 氏（日本大学総合科学研究所准教授）
「働き方改革をミクロ経済学で考える」

入場は無料。参加登録が必要です。（先着100名様）
参加ご希望の方は以下のWEBページよりお申込みください。

<https://goo.gl/TQDLfr>



【会場アクセス】
最寄駅：地下鉄大手町駅D6出口直結
東京都千代田区丸の内1丁目1-3
日本生命丸の内ガーデンタワー3階
<https://goo.gl/xKC4N3>

裏面もご覧ください

首都大学東京大学院 経営学研究科
経済学プログラムキックオフ シンポジウム
「経済学で考える日本の問題」詳細



内容

2018年4月から始まる経済学プログラム（修士）を知ってもらうため、経済学の重要性和面白さが伝わるようなシンポジウムを企画し、日本の大きな2つの問題について議論します。

最初の講演は、日本銀行金融機構局でさまざまな日本の経済問題の研究に携わっている第一線の研究者木村武氏と共に、日本のサービス産業の経済発展について考えていきます。人口減少・デフレ・生産性低下と「おもてなし」という関係を紐解き、サービス産業発展のためには「おもてなしの呪縛」から解放される必要があると訴えます。

もう1つの講演は、TVや新聞などのメディアでも活躍の日本大学の安藤至大先生をお呼びします。ミクロ経済学での基本である比較優位と分業から働き方改革について考え、人手不足と技術進歩による失業問題や雇用のミスマッチを経済学の視点からどのように捉えて、どのように解決すべきかについて論じて頂く予定です。

経済学を用いて読み解かれていく日本の問題。少し難しく感じられるかもしれませんが、お二人は、難しい問題を面白く易くお話して頂けることに定評のある講演者です。本シンポジウムを通じて経済学の必要性和楽しさを知って頂き、本学大学院経済学プログラム（修士）に興味を持って頂けることを願っています。

プログラム

司会：高見 典和（首都大学東京大学院 経営学専攻）

14:00 開会の挨拶 高尾 義明（首都大学東京大学院 経営学専攻長）

14:10 講演1 「おもてなしの国日本の経済成長は持続可能か？

——人口減少、デフレ、生産性向上を考える——」

木村 武（日本銀行 金融機構局 審議役）

討論者：荒戸 寛樹（首都大学東京、4月より経済学プログラム所属）

（50分講演、10分ディスカッション、10分質疑応答、計70分）

15:20 休憩

15:30 講演2 「働き方改革をミクロ経済学で考える」

安藤 至大（日本大学 総合科学研究所 准教授）

討論者：森本 脩平（首都大学東京、4月より経済学プログラム所属）

（50分講演、10分ディスカッション、10分質疑応答、計70分）

16:40 首都大学東京大学院 経済学プログラムのご案内

渡辺 隆裕（首都大学東京大学院 経済学プログラム ディレクター）

17:00 閉会

日時：2017年11月18日 14:00-17:00 (13:30開場)

会場：AP東京丸の内 3F

入場は無料。参加登録が必要です。（先着100名様）

参加ご希望の方は以下のWEBページよりお申込みください。 <https://goo.gl/TQDLfr>

【お問い合わせ】 tmumec@gmail.com までメールでご連絡下さい（担当：渡辺、高見）

表面もご覧ください